

ほのぼの News Letter



No.9 2017年7月号

一般社団法人 ほのぼの運動協議会



CONTENTS

- | | | | |
|---|---------------------|----|--------------------|
| 2 | ほのぼの憲章 | 12 | 忘れな草プロジェクト 仙台編 |
| 3 | 2017年忘れな草プロジェクトに寄せて | 13 | 忘れな草プロジェクト 郡山編 |
| 4 | 忘れな草プロジェクト 手渡し式 | 14 | 忘れな草プロジェクト 番外編 |
| 6 | 忘れな草プロジェクト 巣鴨編 | 16 | みなさんの声 |
| 8 | 忘れな草プロジェクト 代々木公園編 | 19 | 忘れな草プロジェクト収支報告／フォト |
| | | 20 | お知らせ |

ほのぼの運動憲章

—ほのぼのと夢ある社会を実現する運動—

わたしたちは、ほのぼの運動の活動を通じて日本の各地に夢と希望の灯をともし、ほのぼのとしたあたたかい場づくりを目指します。

一. 日本の食文化・農業への思い

からだにやさしい国産の食材を活かし、手づくり、本物づくりにこだわります。
日本ならではの食を通じ、食べた人の心にほのぼのとしたあたたかみを伝えます。

一. 地球環境への思い

住みやすい地球をつくるために、包装・資材などの資源にこだわります。
周辺の人たちと力を合わせて環境美化を心がけ、清潔・清掃を徹底します。

一. 地域コミュニティへの思い

街のほのぼののスペース、「私の街の私のお店」と思っただけのような店づくりをします。
地域の人たちが安心して喜び集まるような、手のぬくもりが伝わる場づくりをします。

一. 働く意義への思い

売上の一部を社会に還元します。
それによってスタッフみんながはたらく(傍楽)喜びを感じられる店舗運営をします。

一. “ほのぼの”を創りつづける思い

形のない“ほのぼの”だからこそ、お客さま、コミュニティ、仲間、スタッフ、みんなの
“ほのぼの”を追求しつづけます。
“ほのぼの”運動のさらなる浸透・発展を思い描き、真の豊かさを感じ、分け合います。

一. 未来への思い

未来のために、女性の社会進出・シニア世代の活躍など新しい価値観を創造し、挑戦します。
お客さまとお店との絆、同じ地域という絆、家族の絆、働く仲間という絆、多くの絆のな
かから、新しい社会を創造します。

一. 夢への思い

自分自身の夢を育み、仲間の夢を支え、お客さまの夢を大切にし、前進します。
「夢は見るものではなく、叶えるもの、そして更に追い求めるもの」との思いをみんなと共
有し、つねに忘れません。

第4回 忘れな草プロジェクト

■大河原毅理事長のあいさつ

小さくはじめた忘れな草プロジェクトも今回で4回目となりました。震災から6年がたち、復興支援の影も薄れてきている一方で、私どもの支援の輪はどんどんと広がりワスレナグサの花の色のように濃くなってきています。

会場でいえば、今回は新たに巢鴨という場所が加わりました。場所柄、高校生たちにまるでわが孫のように語りかけてくださる方々がたくさんいらっしゃいました。代々木公園で開かれるアイルランドフェスティバルは2日間の開催へと拡大され、今年も大賑わいで福島の高中生たちにもよい体験になったと思います。先日、アイルランド大使アン・バリントン閣下との食事会では同じ志を確認し、我々のと絆がさらに強くなった思いです。今後はアイルランド共和国のように、各国とも連携を図っていきたいと思います。人という点では今回伊達物産株式会社さま、株式会社シャポンドウさまの協力の下、初めて東北で開催をいたしました。仙台では仮設住宅生まれのキャラクター「めんどくしえおのくん」、郡山ではタレントのなすびさんがそれぞれ応援に駆けつけてくださり、いっしょに活動をしてくださいました。

さらには、東京山王ロータリークラブのみなさんも代々木公園で高校生とともに募金の呼びかけをしてくださると同時に多大な寄附金も頂戴いたしました。学習院大学馬術部につづいて、恵泉女学園大学では学内には忘れな草プロジェクトの寄せ鉢が、同大学が運営されている多摩市立グリーンガーデンには花壇を設置してくださいました。これらは学生による自主的な活動によるものだと伺っています。

それにより、より多くの高校生にイベントに参加してもらうこともできました。

テーマどおり、世代やフィールドを越えチカラをあわせるイベントにすることができたのではないのでしょうか。次回から新たに会津農林高等学校も忘れな草の栽培に手を上げてくださいました。これによりますます多くの忘れな草を届けていくことができるでしょう。今後の展開を楽しみにしていただければと思います。

■忘れな草プロジェクトによせて

株式会社シャポンドウ 取締役社長 中野 秀昭

月日の流れは早いもので、東日本大震災から丸六年が経ちました。当時、弊社の店舗も二十店以上が営業をすることができなくなり、そのうち三店舗は閉店を余儀なくされました。

たくさんの人々に助けられ、また全社員が一丸となり力を合わせて困難に立ち向かい、今では震災の前よりも店舗の数が増えるまでになりました。

ただ、「あの時の気持ちや、助けて頂いたことへの感謝を忘れてはいけない」という思いから今回、忘れな草プロジェクトに参加させていただきました。

本当に綺麗な忘れな草を育ててくれた農業高校の生徒さんとの出会い、配布活動を行っている中で自ら進んで募金に来てくださる方々、「頑張ってください」と声を掛けてくださる方々に感謝をし、感動をしている次第です。

私共としてもできるだけのことはしたいと考えております。これからも、みんなで手を携えて前へ進んでまいりましょう。よろしくお願い申し上げます。





第4回 忘れな草プロジェクト 2017 —チカラ、あわせて—

■第4回忘れな草プロジェクト 2017—チカラ、あわせて—

2013年、ほのぼの運動協議会で東北視察に訪れ、東日本大震災の復興のため継続的な支援をしていこうと決めて以来4回目を迎えた2017年の忘れな草プロジェクト。今年は、福島・宮城・山形を拠点としてケンタッキーフライドチキンなどを展開されている株式会社シャポンドウと株式会社伊達物産の協力のもと、初めて東北でも開催いたしました。東京2ヶ所3日間に、仙台、郡山が加わり合計5日間。鉢数も昨年より増え、ますます大きく、同時に多くの支持を集めるイベントとなりました。

2016年11月に行われたほのぼの運動協議会の総会で、新たに分科会が設置されることになりました。忘れな草プロジェクトの担当として小島敏宏理事（日東富士製粉株式会社）と高柳泉監事（株式会社ジェーシー・コムサ）が、そして東北での開催を実現させるために中川達司常任理事（株式会社ジェーシー・コムサ）が特別担当として就任いたしました。

また、同じく総会で会員からイベントの開催場所として巣鴨を提案する声があがりました。

一方、忘れな草を栽培してくれる福島県内の農業高校では、年間スケジュールの中にほのぼの運動の忘れな草の栽培を組み込んでくださったこともあり、イベントまでに忘れな草の花が咲くようにと例年より1ヶ月早い11月から栽培に取り組んでくれることになりました。

このように、2017年開催の第4回忘れな草プロジェクトは高校と協議会、両者のより積極的な活動でスタートすることとなりました。

■手渡し式①——磐城農業高校

2017年2月24日金曜日の朝、磐城農業高校へ手渡し式のためおうかがいしました。丘の上に建つ校舎は、青く晴れ渡った空を背景に白く輝いていました。

渡辺校長、担当の菅野先生をはじめ、昨年参加してくれた生徒3名を中心に13名で迎えてくださいました。

中川常任理事、小島実行委員長のあいさつに続き、渡辺校長からお言葉をいただきました。真剣に耳を傾ける生徒たちの様子にとっても心強いものを感じました。

生徒のみなさんからは、「これから花が咲くように一所懸命に育てました。3月はよろしくお願いします」、「11月に苗が届いてから、一つひとつ丁寧に育ててきました。

私たち3人は去年に引き続きプロジェクトに参加させていただくので、去年より、より多くの人に震災を忘れないでということをお伝えできるようがんばります」と決意を聞かせてもらいました。



■手渡し式②——福島明成高校



午後は福島明成高校へおうかがいしました。いわきとはうってかわって小雪が舞うほどの寒さの中、教室ではストーブを炊いてみなさん待っていてくれました。

明成高校には、昨年磐城農業高校の校長でいらした佐久間校長、担当の佐久間先生、斉藤裕太先生、そして同じく磐城農業高校から移動された斉藤誠先生と生徒のみなさんが迎えてくださいました。

佐久間校長から、「この忘れな草プロジェクトに参加したくて科を選択する生徒が出るほど人気がある」とのお話をうかがい、あらためてこの活動の広がりを感じることができました。添えられたメッセージカードはシードペーパーといって、このまま土に埋めると

芽が出て花が咲くというものです。「私たちの思いが花を咲かせて、多くの人々に伝わるよう気持ちを込めて書きました」との思いを聞かせてくれました。

それぞれの思いを受け取り、東京での再会を約束した手渡し式となりました。



第4回 忘れな草プロジェクト2017

チカラ、あわせて

3月11日 巣鴨地蔵通り商店街すがもん広場 編

第4回の初日は3月11日。テレビでも東日本大震災の特番が放映されている中での開催でした。場所は、初めての巣鴨地蔵通り商店街。“おばあちゃん原宿”とも称されるほど、年配の女性が多い通りとして有名です。どういった雰囲気になるのか、まったく予想がつかない中、福島明成高校の生徒のみなさんとボランティアスタッフが集まりました。

■4年前のこの日と同じくらい、青い空の下



J R 巣鴨駅からほど近い巣鴨地蔵通り商店街。その入り口アーケードすぐのところすがもん広場があります。とても広々としたところで、朝、集合するとすぐに生徒たちもボランティアもダンボールを広げ、セッティング作業に入りました。震災と同じ3月11日ということもあってか、朝からテレビの取材が密着で生徒たちの様子を追っていました（このときの様子は、お昼のニュースで放映され、下の写真がそのときのものです）。

これまで福島明成高校の生徒たちが配布する日は雨の日が多かったのですが、この日は抜けるような晴天。みなさん、のびのびと活動していました。

実は、今年は湿気が多く、忘れな草の栽培には難しい天候だったとのこと。ダメになってしまったものもあった中、苦勞しながら育て上げた忘れな草たち。その分、配布の際の思いも強かったと思います。



巢鴨という場所柄、ある程度早い時間から人出はあるだろうと予想はしていたものの、12時以降は歩行者天国になるためそこから本格的に配布になるだろう……。そんなスタッフの予想は大いに裏切られ、準備を始めるや否や次から次へと人が集まってきました。

しかも、みなさん高校生と会話をしてくださいました。立ち止まり、じっくりと話をしながら募金をしてくださるその姿に、ほのぼの運動の本来の姿を見ることができた気がするといった理事もいたほど、あたたかい空気を感じました。結局、用意した800鉢は12時の歩行者天国を待たずになくなってしまいました。

締めのカンタイも、時間に余裕があるためかいつもより会話も笑顔も多かったようです。来年はもっと多くの鉢を持って、また巢鴨へうかがいます！



第4回 忘れな草プロジェクト2017

チカラ、あわせて

3月18日、19日 代々木第一公園 編

(アイラブアイルランド・フェスティバル内)

毎年ブースを提供くださっているアイラブアイルランド・フェスティバルに今年も例年どおり出店させていただけることになりました。今回から土曜日と日曜日の2日間開催になり、それぞれ磐城農業高校と相馬農業高校のみなさんが配布のため上京してくれました。土曜と日曜、それぞれ全く違う雰囲気イベントとなりました。

■4年目にして初の経験

初日の18日は磐城農業高校のみなさんが配布に上京してくれました。この日はボランティアが少なかったものの、昨年もアイラブアイルランド・フェスティバルで配布をしてくれた生徒が3人、担当の菅野先生も3度目の参加ということで、とても心強く感じられました。

初めて開催した土曜日のアイラブアイルランド・フェスティバルは、全体的に訪れる人もまばらでなかなか配布が進みませんでした。途中、高校生は昨年配布した表参道のまちかど庭園へと移動し、代々木公園と2か所で配布をすることに。

表参道の人通りはとても足早で、声を一生懸命出してアナウンスをしましたが、なかなか足を止めてくださる方がいません。その分、足を止めてくださる方へは深々とお礼をする生徒たち。

刻々と帰りの時間が近づき次第にあせりも出てきた様子。結局、高校生はタイムアウトで4年目にして初めて最後まで配布しおえることができませんでした。

帰りがけ、歩いている高校生の後を走っておいかけ、「がんばれよ」と声をかけてくださる男性に、落ち込んでいた高校生の心も少し救われたようでした。





それでも最後の締めくくりは笑顔でカンタイ！ あまったたい焼きをお土産に、郡山でのリベンジを約束して帰っていきました。（その後、社会人ボランティアが代々木公園でこの日配布予定数は配り終えました）

時間のかぎりがんばった磐城農業高校の生徒のみなさん、そして悔しさをにじませる菅野先生の姿に、私たちが改めて責任を感じた1日でした。

■過去最高の人出の中で

一方、翌19日は東京山王ロータリークラブのみなさまや倫理法人会のみなさまがボランティアに駆けつけてくださり、スタッフが30名を超えるという、過去最高の参加者が集まりました。

相馬農業高校の生徒たちによる自己紹介の後は、点呼をとって何となく参加者がわかったところで、



おなじみの室屋先生による「えがお体操®」をみんなでやりました。表情をしっかりとほぐすと、気持ちまで打ち解けた気持ちになるから不思議です。

この日は、前日とはうってかわってフェスティバルもたいへんな人出で、開始早々からごった返しの様相でした。

相馬農業高校の生徒のみなさんは、始まるとすぐに海外のメディアからの取材を受けることに……。 「だれか英語ができる人はいますか？」と問われて、互いに顔を見合わせながらちょっと困った様子を見せた生徒たち。でも、その後はそれに勢いづいてか、外国の方へも積極的に話しかけるなど、この場所ならではの醍醐味を楽しみながらイベントに参加してくれました。

毎年この会場でお見かけし、声をかけてくださる“常連さん”もいらっしやり、それもこの場所ならではの楽しみになってきました。なかには、「おとしいただいたものがまだ庭で咲いている」という方もいらっしやり、忘れな草と同じようにこの活動も根を張っていっていることが感じられました。

時間が経つとともにふえてくる人込みの中、次から次へと配布が進んでいきます。すでに花が咲いているものも多く、それもみなさんに喜んでいただけたのかもかもしれません。



後半は、例年どおり、アイルランド大使へ忘れな草を贈呈するセレモニーが開催されました。ステージに上がり、直接大使へ忘れな草を差し上げるという、とてもスペシャルなセレモニー。今年もきれいに花を咲かせた鉢をお渡しすることができました。

最後は、勢いよくカンタイで締めくくりました。

今年のアイラブアイルランド・フェスティバルは2日間で約11万人の来場があったとのこと。来年も2日間開催されるとのことなので、今回の反省を活かし、来年こそ両日生徒たちの手で配布を完了させられるよう、また取り組んでまいりたいと思います。



第4回 忘れな草プロジェクト2017 チカラ、あわせて in 東北

4月2日、仙台 編

伊達物産株式会社さま、株式会社シャポンドウさまのご協力によって、初の東北開催ができました。東北第1弾は仙台。250鉢を用意し、ケンタッキーフライドチキン仙台駅前店とパピナ名掛丁商店街入り口で配布をしました。当日は宮城県東松島市仮設住宅生まれの人気者「めんどくしえおのくん」も応援に駆けつけてくれました。

■同じ東北だからこそ

4月とはいえまだ肌寒い中、ケンタッキーフライドチキン仙台駅前店に福島明成高校の生徒、シャポンドウの中野社長、石本さん、ほのぼの運動からは中川常任理事、小島実行委員長、作間事務局長が集合しました。同じ東北、同じ被災地ということで「いっしょにがんばりましょう」という声とともに忘れな草を配布することにし、アテンションが終了するとすぐに準備にかかりました。

さすがに開始早々に人々が集まり……というわけにはいきませんでした。それでも少しずつ通りがかりの方々に興味をもってよってきてくださいました。「おのくん」は人気者で「あっ、おのくん！ 握手してもいいですか？」「いっしょに写真を撮ってもらえますか！」と声をかけられることが多く、とても心強いサポーターでした。

終了間際、「俺たちも福島明成だったよ！何学科？」と聞く男性の集団が通りかかり、「昔、俺たちもやっていたよ。がんばれよ」と、忘れな草は受け取らずに募金と応援の声をかけてくださいました。

予定どおり、13時開始でほぼ15時に終了。最後は、おいしいケンタッキーフライドチキンをいただき解散となりました。初めての東北での忘れな草プロジェクトもたくさんの喜びと絆を感じることができました。



第4回 忘れな草プロジェクト2017 チカラ、あわせて in 東北

4月9日、郡山 編

2017年の忘れな草プロジェクト最後の会場は、郡山。伊達物産株式会社さま、株式会社シャポンドウさまのご協力のもと、イオンタウン郡山、郡山イオンフェスタ店を会場に開催させていただきました。福島出身のタレント・なすびさんが応援に駆けつけてくださり、磐城農業高校の生徒といっしょにイベントを盛り上げてくださいました。

■あたたかさが身にしみた、福島

この日、郡山は雨模様でしたが、イオンタウン郡山も郡山イオンフェスタ店も屋根があるので安心して臨むことができました。フェスタ店では、イベントステージを用意していただき、なすびさんがマイクで募金を呼びかけるとあっという間に人が集まり、開始後30分で配布予定数が終了してしまう結果に。もう少し多く鉢が用意できるとよかったのにと会場の方からも惜しまれるほどでした。

一方のイオンタウンのほうでは、広大な敷地の中であまり目立ちほしくないものの、地道な声かけで着々と配布をしていき、こちらも1時間強で配布が終了してしまいました。

最後はなすびさんもいっしょにイオンタウン郡山のケンタッキーフライドチキンでおいしいチキンをいただきながら、今年最後の締めくくり。また来年も同じようイベントが開催できるよう、これから1年がんばってまいりたいと思います。募金や配布に協力して下さったみなさま、参加して下さったみなさま、応援して下さったすべてのみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。



第4回 忘れな草プロジェクト2017

チカラ、あわせて

番外編

■学習院大学馬術部植栽式 2月15日

昨年に引き続き、2017年にも学習院大学馬術部から忘れな草プロジェクトにご寄附をいただきました。そしてパドックにほのぼの運動の花壇を設置いただけるとのことです。植栽式を行うこととなりました。忘れな草を育ててくれている地のひとつである相馬には、相馬野馬追という東北六大祭りのひとつに数えられるほどの祭りがあります。そこで、馬つながりということで、今回は相馬農業高校で育てられた忘れな草で花壇をつくっていただくことにしました。

当日は、ほのぼの運動協議会から大河原毅理事長（株式会社ジェーシー・コムサ）をはじめ、中川達司常任理事（株式会社ジェーシー・コムサ）、於保裕美理事（株式会社ジェーシー・コムサ）らが参加させていただきました。

植栽式の後には、有形文化財に指定されている明治41年に竣工された厩舎を見学させていただき、歴史ある学習院大学馬術部をはじめさまざまな話題について歓談させていただきました。

学習院大学馬術部では、ホースセラピーや体験乗馬会なども随時開催されているそうです。また馬術部員にひと声かけていただければ見学もしていただけるとのことです。山手線の目白駅前という都会の真ん中で、のびのびと馬が駆けている姿を見られる大変貴重な場です。ぜひ、一度訪れてみてはいかがでしょうか。お問い合わせは、gakushuinuma@gmail.com まで。



■恵泉女学園大学 寄せ植えの設置

今年、新しく恵泉女学園大学にもほのぼの運動忘れな草プロジェクトの寄せ植えが設置されました。

恵泉女学園大学と忘れな草プロジェクトのご縁はとても深く、初めての忘れな草プロジェクトの呼びかけになかなか応えていただける高校がなかったところ恵泉女学園大学の澤田みどり教授にご尽力いただいたのがはじまりです。その後も苗の手配等、裏方の立役者として活躍いただきました。

一方、今回寄せ植えを企画してくださったのは、4年生の本田さん。2015年の4月、同大学に入学してきた本田さんは福島県立福島明成高校出身。卒業の際、当時福島明成高校の農場長だった橋本先生（現在福島県立岩瀬農業高校教頭）から「温室の都合で、今回（2014年、第1回目の忘れな草プロジェクト）協力できなかった。恵泉に入学したら澤田先生にお詫びを伝えてください」と言付かてきたところ、入学式で澤田先生に会ったというのです。そして、第2回目以降、明成高校のイベントの際に大学生ボランティアとして参加。卒業を翌年に控え、「せっかくのご縁。未来につながる何かを残したい」とのことで女学生数人とともに寄せ植えを企画・実行してくださいました。

恵泉女学園大学は、設立当初より聖書・国際・園芸を学業に取り入れており、学生がみんな園芸を学びます。そのため、澤田先生以外にも園芸を専門とされる先生方が多くいらっしゃいます。そういった先生方のご協力もあり、今回立派な寄せ植えの鉢を設置してくださいました。多摩センター駅と大学を往復する場所の発着場であればほとんどの学生が通るため見ていただくことができるとのこと。

さらに、多摩市と多摩グリーンボランティア連絡会と恵泉女学園大学が協働で管理運営している多摩市立グリーンライブセンターの一画にも、「ほのぼの運動 忘れな草プロジェクト」を設置。広く一般の方々にも楽しんでいただけるようにしてくださいました。ほかに、寄せ植えのほかに忘れな草を押し花にしたしおりなども作ってくだり、それをまた福島明成高校に贈るという素敵な絆も生まれました。この絆を、これからも大切にさせていただきます。



左側3枚が3月12日の寄せ植え、植栽の様子。右側2枚は4月に入ってから様子。上段が恵泉女学園大学のバス発着場で、下段が多摩市立グリーンライブセンター。右下の1枚に写っているのが、本田さん。

●多摩市立グリーンライブセンター（TGLC）

利用時間：9時30分～17時
休館日：月曜日・第4火曜日（祝日の場合はその翌日）
年未年始（12月29日～1月3日）
電話番号：042-375-8716
入園料：無料



第4回 忘れな草プロジェクト2017

チカラ、あわせて

みなさんの声 編

ただ何となく花を育てることと、目的があって花の手入れをすることは、同じ作業を行ってはいるが、その学習効果には大きな差が生じる。やりがいと、意欲とか、感動とか、感謝とか、自己肯定感とか。自分達が育てた「忘れな草」をどんな人達が、どんな風に育ててくれるのか、生徒達は「わくわく」しながら取り組んでいる。

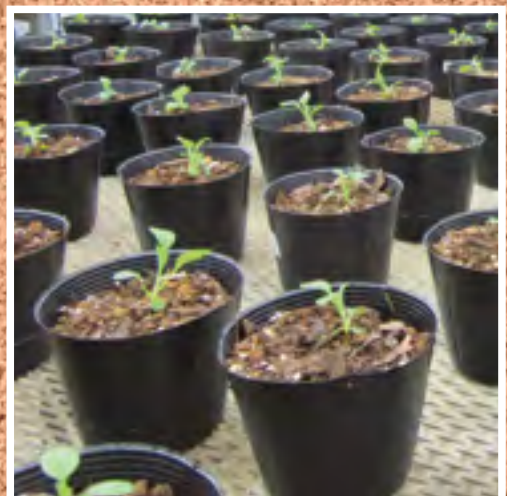
福島県立福島明成高等学校 校長
佐久間 秀夫

草花生産は一見すると華やかなイメージを持つ生徒が多いですが、実は土作りや鉢上げ・追肥・手入れなど力仕事や単純な作業がほとんどです。しかし、本校の草花専攻生の生徒達が忘れな草の栽培や東京・仙台での募金活動を通して「草花」の持っている「人の心を動かす力」、「生産者としての喜び」を感じてくれたらと日々、試行錯誤しながら取り組んでおります。

福島県立福島明成高等学校 草花部門
齋藤 裕太

忘れな草プロジェクトに参加して感じることは、生徒の成長を見ることができ、また、福島県のご支援の感謝の気持ちを直接伝えられる良い機会と思っています。生徒達もこのイベントに参加することを楽しみにしています。これからも、後輩たちに引き継がれていけたらと考えております。最後に、「生徒の輝ける場所」を提供していただいているほのぼの運動協議会の皆様には感謝申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。

福島県立福島明成高等学校 草花部門
齋藤 誠



震災から7年目に入り、本校はこの四月から復興元年としてスタートしました。昨年9月末にすべての復旧工事が完了し、新しい施設・設備の中で平成29年度が始まりました。ここまでこれたのも全国各地からいただいた御支援や励ましがあつたお陰であると思っております。

特に、生徒たちが震災でいただいた御支援を忘れることなく、色々な人に感謝する心をもって生活するよう努めて参ります。

福島県立磐城農業高等学校 校長
渡辺 譲治

生徒が実習時間ぎりぎりまで「もう少しだけ作業していていいですか?」と、大事に育てていた姿はとても印象的でした。

待ちに待った配布日は、持ち前の明るさと、皆様のあたたかいお声掛けに背中を押され、笑顔で堂々と配付していた姿に驚きました。私達にとっても震災の御支援への感謝を忘れないという気持ちがより一層強くなり、それが少しでも形にできたと思うと売れ行く思います。当プロジェクトに参加させていただきありがとうございました。

福島県立磐城農業高等学校 教諭
柴田 大河

忘れな草プロジェクトに参加し、今年で3年目を迎えました。私が勤務する福島県立磐城農業高校は6年前の東日本大震災により大きな被害を受け、長い間、不十分な学習環境の中生徒は勉強・実習と夢の実現に向けて励んできました。プロジェクトへの参加は、日々ご協力・ご支援頂いた方々へ、感謝の気持ちを伝えられよう精一杯活動を行ってきました。毎年、多くの方々に声をかけて頂いたり、育てた苗を沢山の方に見て頂いたり、プロジェクトを通して感謝の気持ちを伝えることができたのではないかと思います。貴重な体験をありがとうございました。

福島県立磐城農業高等学校 教諭
菅野美樹



東日本大震災から6年経過しましたが、完全な復興までは時間がかかると思います。被災地ではそう感じていても、それ以外の地域では記憶が薄れているのではないかと思います。生徒が育てた「忘れな草」を配布して、被災地を忘れて欲しくないと言う願いもあります。誰もが身近で大震災が起こるかもしれないという気持ちを持って欲しいという願いの方が最近では強くなっております。今回の震災を皆さんの教訓にし、今後行動していただくことを強く願います。

福島県立相馬農業高等学校 校長
中野 幹夫

東日本大震災で元気がなくなった南相馬市から、「地域に元気を発信しよう!」と思い参加させていただくことになりました。農業クラブ員が中心となり、放課後にコツコツと準備した忘れな草は、生徒の忘れないでほしいとの想いや、多くの方々に支援していただいた感謝の思いがこもっています。イベントを通してたくさんの方と交流ができる良い機会なので、今後も参加し続けたいと考えています。

福島県立相馬農業高等学校 教諭
赤崎 直樹

今年初めて活動に参加させて頂きましたことに、クラブを代表し御礼申し上げます。忘れな草、その名に込められた想いを忘れないように。東日本大震災の悲しく辛い記憶が忘れ去られることのないように。未来が今よりも少しでも明るく実りある社会になるように、今後も真摯に活動に参加させて頂きたいと強く感じました。

2016-17年度 山王ロータリークラブ会長
安田 尚子

参加している高校生たちが、忘れな草を育てるだけでなく、手書きのお礼状を丁寧に折り畳んで作ったシオリを用意しているのを見て、彼らの優しい心遣いと行動力に感激しました。そのお手伝いが出来たことで我が身が多少なりとも浄化できたような気がしました。この運動は思い付きで参加して良いものではなく、続けて行かなくてはならないとの印象を持った次第です。

2017-18年度 山王ロータリークラブ会長
細田 治

Greetings to everyone involved in the wonderful Honobono project.

Using pretty forget-me-nots flowers raises awareness of Japan's natural disasters and reminds us of the people still affected by the triple disaster of the Great East Japan earthquake, tsunami and nuclear meltdown and the subsequent Kumamoto earthquake. I am honoured to support this work to mark Ireland's solidarity with Japan as we celebrate 60 years of diplomatic relations and wish you every future success.

Anne Barrington
Ambassador of Ireland

第4回 忘れな草プロジェクト2017ーチカラ、あわせてー収支報告

収入金額	
寄附金収入	800,835
ほのぼの運動	852,266
合計	1,652,101

被災地の活動支援金	
ワスレナグサ栽培費	285,300
旅費・交通費	586,484
寄附金	
寄附金(相馬農業高校、磐城農業高校、福島明成高校)	300,000
被災地支援費合計(活動支援費+寄附金)	1,257,974
その他の経費	
包装資材、販促物作成費	375,077
その他雑費	20,050
合計	1,653,101

支出金額合計(被災地の活動支援金、寄附金、その他の経費)	1,652,101
差引	0



第6期 ほのぼの運動協議会 事業年間スケジュール（案）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
継続的寄付先					決定				寄付金			
物資支援	随時受付・実行											
店舗の地域活動	随時受付・実行											
忘れな草	東北						栽培開始	発送			手渡し式	実行
フォーラム				準備	8月24日							
域学交流イベント				準備	準備	9月14日						
JCコムサ主催ほのぼのゴルフコンペ							10月11日					
総会・理事会	理事会	監査	定例会議	7月14日		定例会議	理事会 10月5日				理事会 2月14日	定例会議
WEB広報	随時アップロード											
ニュースレター	準備	準備	発行	準備	準備	準備	発行	準備	準備	発行	準備	準備
その他												
経理	事務局が経理業務を行い、毎月10日までに新宿総合会計事務所に提出し、20日迄に会計士と打ち合わせを実行											

ほのぼのフォーラム日程決定

2017年のほのぼのフォーラムは、昨年のみなさまからの声にお応えして、夏に開催することになりました。8月24日（木）、場所等の詳細は決まり次第ご連絡いたします。たくさんの方のご参加をお待ちしております！！

「めんどくしえ おのくん」の絵本ができました

2013年の夏、東北被災地視察で訪れ手にした「めんどくしえおのくん」の絵本ができました。心ほっこりするファンタジーにとっても素敵なおのくんの絵が満載です。販売店も募集中だそうです。お問い合わせはメディア・サーカス（03-5459-5105）まで。



個人のSNSに小豆の写真を載せました。「ウォーリーを探せ」まねて、「おいしいあんこになれない小豆を探せ！」と題し、欠けた小豆を探してもらいました。

それを見た人たちからは「みんないい子に見える！」「みんなおいしいあんこになれるようにしか見えない！」といったコメントばかりでした。つくづく、国産の商品の質の良さを感じました。

ところで、2ヶ月にわたる忘れな草プロジェクトのイベントが終わりましたが、私の実家の忘れな草はすでにタネを宿し、来年は庭の一定スペースを占領しそうな勢いを見せています。イベントも来年はもっと大きくなるでしょう。ますます私のスケジュール帳も忘れな草プロジェクトに占領されそうです。（笑）

事務局長 作間由美子

ほのぼの News Letter No.9

発行日：2017年6月30日

発行：一般社団法人ほのぼの運動協議会

編集制作：ほのぼの運動協議会 事務局

〒150-0022

東京都渋谷区恵比寿南 1-15-1

A-PLACE 恵比寿南 2 F

TEL:03-5722-1070

FAX:03-5722-7396

問い合わせ：jimukyoku@honobono-undo.org